

平成２７年度第２回和水町地域公共交通会議 会議録

【日 時】 平成２７年７月２１日（火）１３：３０～１５：００

【場 所】 和水町福祉センター

【出席者】 委員２５名（代理：１名 随行者：２名）

区分	団体・役職	氏 名（敬称略）
会長	和水町総務課長	高木 洋一郎
副会長	東海大学産業工学部環境保全学科 非常勤講師	渡邊 千賀恵
委員	産交バス株式会社 玉名営業所長	城戸 秀徳 随 行：木下 健司
委員	有限会社高瀬合同タクシー 常務取締役	松葉 秀文 随 行：村上 浩
委員	有限会社三加和タクシー 所長	永田 誠二
委員	一般社団法人熊本県タクシー協会 専務理事	吉田 光義
委員	中央校区代表区長	石原 省三
委員	南校区代表区長	宮本 保徳
委員	東校区代表区長	舩津 秀澄
委員	西校区代表区長	坂本 哲雄
委員	緑校区代表区長	鍋島 隆
委員	神尾校区代表区長	富田 幸廣
委員	春富校区代表区長	石原 信博
委員	和水町老人クラブ連合会 会長	近延 正
委員	和水町民生委員・児童委員協議会 会長	永田 尚稔
委員	和水町地域婦人会 会長	菊川 ヨリ子
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官 （輸送・監査担当）	牛島 光英
委員	熊本県 玉名地域振興局 土木部維持管理調整課長	光永 滋
委員	和水町 建設課長	池田 宝生
委員	熊本県警察 玉名警察署 交通課長	水下 睦文
委員	熊本県交通政策課 審議員	前田 隆 代理：中野千春
委員	和水町 健康福祉課長	今村 裕司
委員	和水町 商工観光課長	坂本 政明
委員	和水町 学校教育課長	吉田 収
委員	和水町立病院事務部長	堤 一徳

【欠席者】 5 名

区分	団体・役職	氏 名（敬称略）
委員	一般社団法人熊本県バス協会 専務理事	新居 唯一
委員	和水町商工会会長	辻 桂一郎
委員	九州運輸局熊本運輸支局 首席運輸企画専門官 （企画調整担当）	松野 完治
委員	全九州産業交通労働組合 書記長	貢 博之
委員	熊本県自動車交通労働組合 書記長	重光 重信

【オブザーバー】 和水町社会福祉協議会 事務局長 坂本 一恵

【事 務 局】 和水町まちづくり推進課 係長 大山 和説
和水町まちづくり推進課 参事 嶋田 真吾

【議題及び協議結果】

（報告事項）

報告第 1 号 和水町地域公共交通網形成計画策定調査業務に係る公募型プロポーザルの
実施結果及び契約締結について
⇒ 質疑等なし

報告第 2 号 予備費の充用について
⇒ 質疑等なし

（協議事項）

議案第 1 号 和水町地域公共交通網形成計画策定調査業務（案）について
⇒ 原案のとおり承認

【発言内容】

事務局	定刻となりましたので、只今から平成27年度第2回和水町地域公共交通会議を開催いたします。本日は大変お忙しい中、お集まりいただきありがとうございます。本日、池本事務局長が議会对応のため欠席しておりますので、代わりに会議の進行を務めます大山です。よろしくお願いいたします。 また、今回よりオブザーバーとして、和水町社会福祉協議会の坂本事務局長にご参加いただいております。それでは開催にあたり、高木会長よりご挨拶申し上げます。
高木会長	【高木会長より挨拶】
事務局	それでは、早速、議事に移りたいと思います。議長につきましては、設置規約に基づき高木会長にお願いいたします
高木会長	それでは議事を進めて参りますので、円滑な進行ができますよう、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。まず、報告第1号「和水町地域公共交通網形成計画策定調査業務に係る公募型プロポーザルの実施結果及び契約締結について」、報告第2号「予備費の充用について」を一括して事務局より報告をお願いします。
事務局	【報告第1～2号の説明】
高木会長	只今、事務局から、報告第1号・第2号について一括して説明がありましたが、ご意見ご質問等がありましたらお受けしたいと思います。如何でしょうか。 【質問なし】
高木会長	それでは、続きまして議案第1号「和水町地域公共交通網形成計画策定調査業務（案）」について」を議題といたします。事務局の説明をよろしくお願いいたします。
事務局	【議案第1号の説明】 ※中央コンサルタンツより詳細説明
高木会長	只今、第1号議案について説明がありましたが、ご意見等を賜りたいと思いますが如何でしょうか。
渡邊委員	私の方から、まず1点目に資料5ページの全世帯アンケート調査の「記入者」は、世帯主なのか、それとも家族それぞれかということを伺います。2点目に、回収率は何パーセントを見込んでいるのかを伺います。
中央コンサルタンツ	全世帯アンケートにつきましては、基本的には世帯主に記入して頂きますが、例えば息子さんが公共交通を利用している場合は、息子さんに聞き取ってもらうイメージです。回収率については3割を基本ラインとしていますが、公共交通に関する弊社のこれまでの他地域での実績としては4割程度あります。やはり自分の生活に直結している内容なので、回収率については高い数字が出ています。
渡邊委員	このアンケートを送送する場合、「依頼状」が同封されると思いますが、これは誰の名義で送るのでしょうか。町の名義でしょうか。
事務局	地域公共通会議の実施するものなので、「地域公共交通会議の会長名」で発送します。「役場が交通会議の事務局」であることを表に出さないと、受け取られた方が、何のことだかわからないと思いますので、そのあたりは十分に配慮するつもりです。

渡邊委員	依頼状が勝負です。どこから送られてきて、何故やるかを誰にでもわかるように、易しく書いてほしいと思います。それさえ伝われば、回収率は５割以上いく可能性もあると思います。 もう１点ですが、アンケートのなかで、家族の中でどのような公共交通を使っているかを聞く設問があるとし、その場合、「複数の家族」が公共交通を使っている場合は、そのうちの「誰か１人」を選んで書くことになりますか。
中央コンサルタンツ	基本的には、「今利用している公共交通期間は何ですか？」と聞き取る設問になるので、もし、３人が３様の利用状況があった場合、例えばバス、タクシー、ＪＲといった回答になります。その世帯からは３つの公共交通のモードを使っていることがわかればよいと考えています。
渡邊委員	いわゆるパーソントリップ調査のような、「交通手段の繋がり」を調べるものではないのですね。細かい動きについては、グループインタビューなどで個別に調べるということなのですね。
中央コンサルタンツ	その通りです。
高木会長	アンケート調査の後にグループインタビューが予定されております。１つの小学校で２０人から３０人くらいの規模になると思いますが、区長さん民生委員さんには是非ご協力をお願いします。 グループインタビューのなかで、交通制約者と思われる方々が抽出され、訪問されることになると思いますが、最近、訪問販売等が問題となっております。その辺の対処についてはどうされますか。
事務局	可能な限り、役場の事務局職員も現場に同席しながら、中央コンサルタンツさんの調査に御協力頂く体制づくりを進めていきたいと考えております。
会長	行けない場合の事も検討しておいてください。
事務局	了解しました。
船津委員	６ページの「現時点で想定する公共交通網形成に向けた対応方針（案）」とあるのですが、例えば方針の①「菊水・三加和を有機的に結ぶ公共交通サービスの強化」などは、今の生活実態から考えて全然ピンとこないのですが。
中央コンサルタンツ	データ上の話になりますが、三加和地区の方々がよく買い物にいかれるのが山鹿市となっているのですが、そのような実態がある場合に、家から買い物施設までタクシーでダイレクトに行けるのが理想です。 現在、東西方向に路線バスが走っておりますが、バス停までのアクセスが現在無いと思います。そうすると路線バスに対してアクセスできる公共交通のモードを入れて、それに乗って買い物ができる環境を作ってあげるという事が「繋ぐ」というイメージであります。ただし、乗換を何回もしなくてははいけなくなると、使ってもらえないのが実態としてありますので、実際に皆さんがどこに行くために、どのくらいの内容であれば使えるだとかといったものを、きちんと個別に調査して行く事で、より実現性のあるプランを作りたいと考えております。 ただ、単純に、南北方向には路線バスが無いから今回入れようという様な発想ではありません。あくまでも、今の生活実態に合わせたものを今回ご提案できれ

	ばと思っております。
船津委員	生活実態の面からはそれは合わない様な気がするのですよね。路線バスのバス停まで行って、お年寄りがわざわざ乗り換えて買い物には行かないと思うのですよね。
渡邊委員	委員さん方には、そういう意見を是非たくさん出してほしいと思います。「皆さんが一体何を欲しがっているのか」を中央コンサルタンツさんには見つけてほしいと思います。
高木会長	単純に旧菊水・旧三加和間を繋ぐという発想もありますけど、旧菊水は玉名市・山鹿市、旧三加和は山鹿市といった経済的な繋がりもありますので、生活様式に合わせた公共交通を考えて行こうという事だろうと理解しています。
渡邊委員	南北に繋ぐという発想は、「時間帯と曜日」によってはありだと思えます。今、横方向に路線バスがあるから、それに縦方向を繋げばいいんじゃないのかという様な、単純な考えでは現実に対応できないと思います。だから例えば、「朝の通勤ラッシュ時には南北に繋ぐのは有効である」、あるいは「日曜の午前１０時頃は南北に繋ぐのは有効である」というような、「現実を踏まえたレベル」まで考え込んだ案を提案して欲しい。「マクロすぎる理想的すぎる案」はちょっと危ないと思います。
高木会長	私たちの生活実態にあった交通網と、こうあった方がいいというようなものを両方兼ね備えた公共交通でないという意味が無いと思います。
吉田（光）委員	タクシー協会からですが、現在県内に３３箇所程度の地域公共交通会議があり、交通空白地域をバス路線に繋ぐ乗合タクシーなどが、かなり進んでおります。 公共交通機関に慣れている方は、代替の乗合タクシーを導入しても対応できるのですが、いままでバスがもともと無かったり、近所の方の送り迎えをお願いしていた方については、そこに乗合タクシーを入れたとしてもなかなか予約が入らないのが現状です。今までの生活習慣から変わろうとしてもなかなか変わりませんので、アンケートなどで生活の習慣をある程度具体的に聞かれた上で運行を検討された方がいいと思います。
渡邊委員	ヒアリング対象にタクシー会社さん２社があると思いますが、提案するなら今しかないという事を申し上げたいと思います。今、タクシー協会から話がありましたが、地元のタクシー会社としては今がチャンスなんです。コンサルさんがヒアリングを行うこの時期に、会社として提案できることがあれば是非提案しておいてください。来年になって提案しても意味がありませんで、このチャンスを受け身で過ごすことの無いようお願いしたいと思います。
吉田（光）委員	ここに、三加和タクシーさん、高瀬合同タクシーさんいらっしゃいますけど、山鹿市と玉名市でそれぞれ実際に乗合タクシー事業をされています。三加和タクシーさんの場合は山鹿タクシーが母体でありますけど、山鹿タクシーが山鹿市で乗合タクシーをされています。タクシー会社は既に受入れ準備は出来ている形になっていますので。あとは地域のニーズにどれだけ応えられるかということになって来るかとおもいます。

高木会長	今までの議論の中で、「地域の人たちのニーズはどうか」、「生活パターンはどうか」といったことが今後の計画を立てていくなかで大きな要素になると思いますので、アンケートや個別ヒアリングは非常に重要な一番基礎なる部分になると思います。
近延委員	私は町の老人会を代表してご意見を申し上げます。グループインタビューのなかで交通弱者ということで高齢者を１００世帯ピックアップされていますが、この町は非常に高齢者が進んでおります。町の全世帯が３８００世帯のなかで、おそらく高齢者世帯、独居世帯または高齢者世帯は私の計算では１０００世帯以上あると思います。そのなかで１００世帯のみのピックアップは対象が狭すぎではないかと思います。如何でしょうか。
事務局	社協が平成２４年度に作成された地域福祉活動計画のデータによりますと、高齢者のみ世帯が４７５世帯、独居世帯が４０７世帯、合計８８２世帯となっています。
中央コンサルタンツ	ご指摘の１０００世帯弱の世帯を１００に絞る理由は何なのかと申しますと、これといった理由はありません。ただ、１０００世帯に近い世帯のなかで、今、自家用車をお持ちの方が大半なのかもしれません、そのなかでも公共交通がないと生活ができない方もいらっしゃるし、地域の共助の中ででしか移動できないという方もおられますので、そういった方々を把握するために、個別の訪問調査を実施させて頂きたいと思います。 ただ、１００という数字については、町の規模に応じて我々でご提案させて頂いた数量でありますので、実際に「１００世帯を超える世帯が抽出された場合」は、超えた分につきましては、個別にお伺いすることはできませんが、ご意見を頂くためにも、「別にアンケート」をやらせていただきます。
渡邊委員	そのアンケートというものは全世帯アンケートとは別に行うのですか？
中央コンサルタンツ	世帯アンケートとは別に行います。プロポーザルの企画提案のプレゼンの際にもポイントとしてお示ししておりました。
渡邊委員	世帯アンケートのところで質問したのですが、どのくらいの利用可能者がいるかという数を掴もうとする場合、全世帯アンケートはそれが分かるように設計しておかないといけないと思うのですが。ただ、今回のアンケートの記入方法では、「使う」、「使わない」がわかる設問は無いということですよ。
中央コンサルタンツ	アンケートが煩雑になりすぎると皆さんが答えづらくなるのでそこまでは記入して頂けません。
渡邊委員	全世帯アンケートの質問内容はマクロで一般的で、回答率は３０～４０％程度あればいいということですよ。一方、グループインタビューでは交通制約者である典型的な１００人を選び、厳しいリアルな問題を掴みたいのですね。ですから両方のやり方において「需要が何人いるか」というのは数値的に出てこないですね。 つまり、「今回の調査で人数を把握しようとは思っていない」のですね。
中央コンサルタンツ	ただ、このグループインタビューの中でお話を伺っていくときに、地図上で移動制約者の方がどこに住まわれているかが分かります。その方々を対象に

	個別に訪問するのが１００人ということになります。実際に２００世帯あれば、超えた分の１００世帯には個別に調査票を送って、行動パターンや、どういった公共交通があれば使うのかを聞き取りますので、「使うであろう人の数」というのは、ある程度は推測出来ると思います。
渡邊委員	その場合、利用者の公共交通機関は何を想定しているのか。南北の路線バス？それともタクシー？
中央コンサルタンツ	そこではモードは重要ではなくて、「何処にいつ行きたいのか」ということだと思います。例えば、「買物に私は水曜日に行っています、ただ、今は公共交通がないので近所に人に送ってもらっています」といったことが分かればいいと考えます。そして、「仮に公共交通があれば乗りますか？」といった質問も併せて行い、そこで乗りたいという回答が出れば、その人たちは乗る可能性のある人と位置付けられます。
渡邊委員	もし、「この公共交通があれば乗りますか」と質問する場合、公共交通とは何をイメージしているのですか？
中央コンサルタンツ	モードの細かい部分の話は正直しないのですが、我々がそこでお話しする場合は、「バス停に行って乗る」という行為です。
渡邊委員	そうすると、追加アンケートされても、「現実的な利用者の数」は出ないと思います。答える方は、良く分かってない状態ですから、公共交通って言葉と言われても、自分が使うかはわかりませんよね。そうすると、「実際に提案するモードに対して利用者がどれくらいいるか」を把握する場合、「全く別のやり方」を考えないと、「全く役に立たない数字」になってしまいます。
中央コンサルタンツ	ただ、今回、計画を作って来年度に実証運行や本格運行へ向けてというプロセスを踏んでいくになかで、線をどこかで引かないといけません。「こういう路線を新規に入れます」と言った時の、新設する際の線の根拠がどうしても必要です。
渡邊委員	地図を渡して、「ここからここまで何分の路線を作ります、あなたは使う可能性はありますか？ありませんか？」といった風に聞いてほしいのです。ただ、言葉で「公共交通があれば使いますか？」といった聞き方をしたって、それは役に立たないと思います。あるいは、「片道一律３００円で乗合タクシーを用意します、あなたは使いますか？使いませんか？」と聞いてほしいと思います。そういう聞き方の調査はいつやりますか。来年ですか。
中央コンサルタンツ	そこまで具体性を持たせた質問は、今年は無理だと思います。
渡邊委員	先程ご質問のあった、約１０００世帯の高齢者世帯の中で、１００世帯では少ないのではないかとご指摘がありましたが、その質問については、一応ここのけりがつくわけですね。今回はあくまでも「サンプリング」で、実際の利用者数は、来年度に具体的に煮詰めて行こうという位置付けでいいのですね。
近延委員	もう一つ、抽出の方法が問題なのですね、１００世帯はわかるのですが、「誰を抽出するか」が問題なのですね。地区的な問題もあるし、年齢的な層の問題もあるし、色々な角度からピックアップする必要がありますね。
中央コンサルタンツ	１００人の選び方については、公共交通空白地であることと、各エリアに偏りがないようにすることぐらいです。

渡邊委員	問題点や課題を見抜くわけですから、全ての交通空白地を視野に入れておいてください。それと、本日、社会福祉協議会さんがお見えですのでご質問しますが、この地区は福祉有償運送はやられていますか？
社協 坂本事務局長	１０年程前までは「外出支援サービス」というものがありました。町の委託を受けて病院に送迎するというものでしたが、有償の免許の関係で事業として成り立たないということでなくなりました。今、町の方でタクシー利用補助があります。外出支援サービスについては、ニーズは多いとおもっています。
渡邊委員	社協さんもヒアリング対象ですので、色々な要望は伝えておいてください。公共交通の議論をしていますと、障害者の方々の移動が忘れられることがあります。障害者の移動は公共交通ではないと思われがちです。しかし、このエリアにおいては、福祉のウエイトは高いわけですから、そこを忘れ去った計画では役に立たないと思います。町の健康福祉課もヒアリング対象になっていますので、この機会に取材に御協力頂きますようお願いします。
高木会長	各交通事業者さんには、中央コンサルタンツさんからヒアリングがあると思います。要望等やこうあるべきだといった意見をお願いいたします。
永田委員	産交バスが通っていない榎原地区や前野地区や十町地区なども、中央地区の馬場地区などと同じ土俵で検討するという考えでよろしいでしょうか。
中央コンサルタンツ	そのとおりです。
永田委員	私が住む下津原から、現行で産交バス山鹿行きが「９：５７」と「１３：４７」、玉名行きが「１１：１２」と「１４：１２」のみとなっておりますが、玉名行きの「１１：１２」では、病院の午前中の診察に間に合いません。今のままでは、利用が本当に少ないのです。そのようなところも含めて、今後、総合的に検討をお願いします。
石原（信）委員	まちづくりの部分で地方創生の小さな拠点づくりとかあると思うのですが、そちらも今年度一杯で計画をつくるということなのですか。
事務局	地方創生の総合戦略についても今年度策定することとしております。地方創生のメニューの中で小さな拠点づくりというものがあり、この地域公共交通網形成計画につきましてはそれに該当しましたので、財源は地方創生の交付金を活用しております。また、商工観光課で同時に作成しております「重点道の駅計画」の策定も同じく地方創生の小さな拠点のメニューとなりますので、それぞれが十分に連携しながら進めていきたいと思っています。
石原（信）委員	現在、バス路線に対しての繋ぎばかりが議論されていますけれども、「小さな拠点の議論と、拠点との繋ぎ」が一番大切になってくると思います。その辺の議論を十分をお願いします。
渡邊委員	事務局にお願いです。６ページに総合スケジュールがありますが、次回の会議は１１月頃予定されていますが、その次の１月の会議で色々な意見がでますとパブコメまで時間があまりありませんので、早めに議論できる部分は前倒しで出して、早め早めに協議をお願いしたいと思います。

高木会長	その他にご質問はありませんでしょうか。それでは、議案第１号については、皆様からのご意見等を踏まえながら、今後進めて行くことでよろしいでしょうか。 【異議なしの声】 ありがとうございます。よって議案第１号につきましては承認されました
高木会長	以上をもちまして、本日の協議議案すべての協議が終了しましたので、議長の職を解かせて頂き、一旦、事務局へお戻しいたします。スムーズな議事進行に御協力を賜り誠にありがとうございました。
事務局	最後に、その他の項目でございますが、委員の皆様から全体的に何かご質問や連絡事項などございましたらよろしくお願いいたします。 無いようですので、以上を持ちまして、平成２７年度第２回和水町地域公共交通会議を終了いたします。委員の皆様、大変お世話になりました。